

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会 議 名	令和5年度第2回高松市生涯学習センター等運営協議会
開 催 日 時	令和6年2月9日（金）午後2時～午後3時
開 催 場 所	高松市生涯学習センター2階 大研修室
議 題	高松市生涯学習センターの課題と今後の取組について
公 開 の 区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	8人
	田中委員、長尾委員、辻委員、後藤委員、井上委員、藤井（真）委員、小松委員、大塚委員
傍 聴 者	0人（定員5人）
担当課及び連絡先	生涯学習課 生涯学習センター 087-811-6222

会議の経過及び結果

《次第》

- 1 開会
- 2 教育局長あいさつ（局長が欠席のため、合田局次長が代理で挨拶）
- 3 会長あいさつ
- 4 議事
 - ・高松市生涯学習センターの課題と今後の取組について
- 5 報告事項
 - ・高松市生涯学習センター施設利用料の改定について
- 6 閉会

《協議の経過及び結果》

事務局から、議事について、説明を行い、承認を得た。

（委員）

「まなび図鑑」は、非常に分かりやすく、かなり機能的になったと思う。

生涯学習センターの差別化を図る上で、他のカルチャーセンターよりも勝るとか優れるとかではなく、完全に異なる必要がある。これを踏まえ、機能を最大限発揮するのが何かと考えたら「まなび図鑑」のように、コンテンツをプラットフォーム化することである。生涯学習センターは、数十年にわたる講師の人材のネットワークがあるので、次は、人材バンクとして人材のプラットフォーム化を行ってほしい。

自主学習の利用者は、かなり増えていて、30代、40代、50代の方の利用も増えているとのことであった。その年代の方々の姿勢を見て、10代の方たちが刺激を受けているという印象を受けたとのことなので、社会人と10代の方をつなげてみるのはどうか。社会人が学生に、自ら

のことを話す場を設けると良いのではないか。

(事務局)

生涯学習センターは、民間のカルチャーセンターとの競争ということではなく、民間のカルチャーセンターでは、なかなかやりにくいところに力を入れることに、価値があると考えている。人材の情報提供プラットフォームについては、難しい面もあるが、現在、生涯学習センターで講師をしていただいている方を紹介する方法について、今後、検討したい。

各世代の人材の交流の場については、「学習成果発表の場」という、市民や市民グループがこれまで培ってきた知識や技術の成果を発表する場がある。高齢者が多い印象もあるが、この場を利用して現役世代が若い世代へ何か教えるようなことができないか、他施設の例も参考にしながら、今後の課題としたい。

(委員)

先ほど人材バンクの話が出たが、私の地元では、毎月 30 名程度が集まり、行事決め等の他、1 時間程度の研修を毎回実施している。出席者に意見を聞き、次年度の研修を決めるのだが、なかなか講師が決まらず、コミュニティセンター職員に紹介してもらおう等を行い、いろいろ情報を得ている。しかし、簡単な情報しかないため、もし人材バンクのようなものができたら、より自分達の求めている方に講師として来ていただけるということになると思う。今後、多くの方の登録があるとすれば、より有効に活用できるのではないかと思う。

(事務局)

人材の情報提供が求められているということは認識した。個人情報取り扱いについては様々な課題もあるので、今後の検討としたい。

(委員)

20 周年記念事業の際、大学生が講師となり、高校生と一緒に地域活性化を考えて、それをラジオで放送するというのをまなび CAN で行ったが、良かった点としては、まなび CAN の存在を知らなかった高校生や大学生たちに施設を知ってもらったこと、高校生が大学生と一緒に学校の授業では学べないことを学べて、かつ、発表の場があったこと、これが一定の成果になっていると思う。

開館から 20 年間の課題で、利用者の高齢化・固定化を挙げているが、これはまなび CAN だけの課題ではなく、日本全国同じような課題がある。これを変えていくのは難しいが、自主学習スペースの開設など、まなび CAN に触れる機会を増やすことがうまくできているので、一定の効果があった。更なる効果は、5 年後、10 年後に出るのではないかと思う。今の高校生たちが大学に進学した後、香川に帰ってきた時に、まなび CAN を利用してみようと改めて思ってもらえたら、次の 10 年に対して、とても有効だと思う。

「市政ちょっと聞いてみて講座 (仮称)」だが、市政という言葉は、一般市民からすると難しいのではないか。

1 月に震災の調査で能登半島に行っていたが、地域のコミュニティセンターや生涯学習センターが避難所になっているのが結構多く見受けられた。その中で、職員と地域住民の距離が近いところは、比較的運営がうまくいっていると感じた。市民と距離があるところは、運営がうまくいかなかったりするので、市の施策の理解を深めてもらうというこの活動は、必要であり、積極的にやっていただきたい。

(事務局)

生涯学習センター開館 20 周年記念事業の際に、高校生が、大学生とプロジェクトチームを作って、まちづくりを学んだが、大学生の考え方を学べたという好評の声をいただいた。社会人と学生の交流についても、とても大切であり、今後にかしたい。

5 年後、10 年後に、今の若い人たちが更にそれを拡大して広げていくという御意見については、今、ようやく種がまかれて、芽が育っている途中なので、今後もこういった若い方に来てもらえるような取組を進めていきたい。

また、災害時の避難所の在り方として、職員と地域住民との近さが大切という点については、職員も施設内のことがよく分かっており、また地域住民も本音で支援を求めることができるため、非常に効果的、効率的な運営が行われると思う。

「市政ちょっと聞いてみて講座 (仮称)」の名称については、この機に、他の委員からも御意見をいただきたい。

(委員)

先ほどの「市政ちょっと聞いてみて講座 (仮称)」についてだが、市政という言葉は少し硬いため、まちづくりとか、まちとか、そういう言葉があったら良いのではないか。

例えば、私たちのまちってどんなまちとか、柔らかいニュアンスの言葉はどうか。私たちのまちはどのようにつくられているのか、というのを引き立てるような言葉が良いのではないか。

また、避難や災害についてだが、能登半島地震の際に、どういった支援物資が必要で、必要ではないかということや、簡易トイレの扱い方が分からないという問題があった。そのような非常事態に備えて防災グッズの講座のようなものを開くことで、まなび CAN とのつながりや、まなび CAN の周辺住民の人たちが、被災にしたときに対応できるようなまちができれば良いと感じている。

(委員)

「市政ちょっと聞いてみて講座 (仮称)」の名称についてだが、やはり市政と聞くと、難しい印象が生まれるため、対象にする年齢にもよると思うが、「香川の頑張りちょっと聞いてみて」や、「香川の自慢」のような感じで、香川県という名前を入れて、もう少し簡単な言葉なら、少し低い年齢でも参加しようという気になりやすいのではないか。

また、自主学習スペースでの交流については、大学生でもあまり社会人と触れる機会はないため、そのような機会があれば良いと思う。その場を「発表」とすると、身構えてしまうと思うため、もう少しフランクな方が良いのではないか。社会人も高校生も、学んでいることについて交流する場を求めている人は多いと思う。

(事務局)

各講座の名称については、身構えずに済むようなもので決めたいと考えており、総称としての、やわらかい冠タイトルがあればと考えている。

災害については関心が高いところだろう。今月、高松地方気象台の職員に来ていただき、災害の講座を行う予定だが、当初の想定を大幅に上回る応募があったため、当初の定員を拡大したところである。今後の運営の参考にさせていただきたい。

また、市民同士が交流するという事は、民間企業ではやりにくい面もあると思うので、様々な課題もあるが、今後検討したい。

(委員)

フランクな交流の場としては、カフェのような機能を持たせられないか。

(事務局)

当センターでは、自主学習の場を2か所用意している。1つは会議室で、静かに勉強するところ。もう1つは交流サロンで、こちらは相談しながらの学習も可能なスペースである。交流サロンでは、ジュースやコーヒーを持ち込んで、お互いに教えあったり、おしゃべりしながら学習を行っている。

まだ知人以外との交流というのは、見られないが、互いに交流できるような雰囲気も作ればと考えているので、引き続きアドバイスをお願いしたい。

事務局から、報告事項について、説明を行った。

(委員)

今回実施する使用料の見直しは、高松市の施設全般にかかることか。

(事務局)

高松市では、3年ごとに施設使用料の見直しを行っており、その中で今回、当センターの施設使用料の改定を行ったものである。現状、冷暖房使用料が、施設使用料の2分の1となっているものを、今回、冷暖房使用料を含めた料金として改定したものである。